

第1回上野地区まちづくりビジョン策定委員会資料

資料1 上野地区まちづくりの将来イメージについて

まちづくりビジョン策定の目的

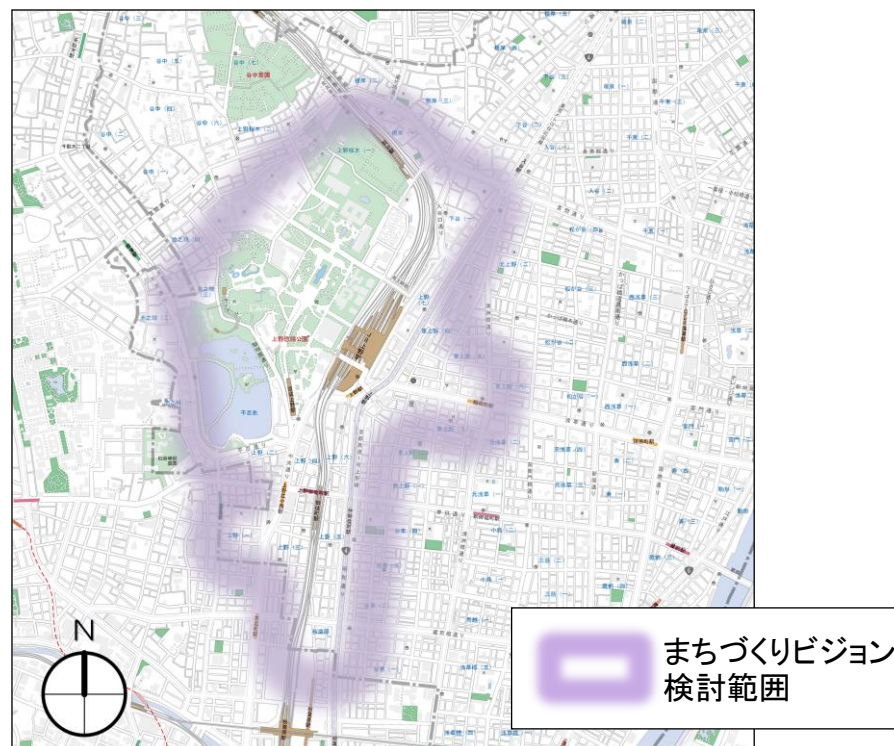
- 上野地区は江戸時代より寛永寺の門前町として発展し、明治以降は東京の**交通の要衝**であるとともに都内有数の**商業地**としての地位を確立してきた。
- また、**上野公園**は、世界文化遺産に指定された国立西洋美術館をはじめとする**質の高い文化・芸術機能が集積**するとともに、東京の憩いの場として**豊かなみどりや水辺**が存在し、他にはないまちを形成している。
- しかしながら近年は、このような資源を活かした計画的なまちづくりの進展が見られず、相対的な都市活力が低下している。
- そこで、上野のまちの魅力をさらに高める計画的なまちづくりを推進するため『上野地区まちづくりビジョン』を策定し、「文化・観光を核とした国際競争力を有する拠点の形成」を図る。



©国立西洋美術館



まちづくりビジョンを検討する概ねの範囲

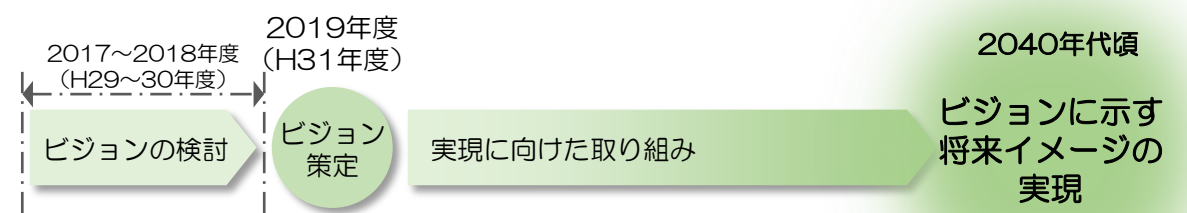


目標年次

本ビジョンは、東京都が2017年に策定した「東京の都市づくりグランドデザイン」と同様に、
現在より概ね20年後の状況を想定し、

2040年代頃

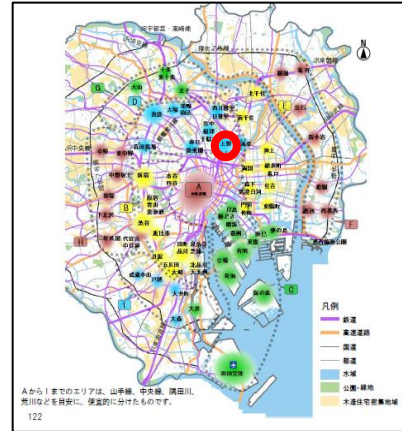
の将来イメージを目標とする。



上野地区の位置づけ(まちづくり)

① 東京の都市づくりグランドデザイン 【東京都／平成29年】

- 上野エリアは「中枢広域拠点」の「中心部(D)」に位置づけられている。
- 将来像について、「芸術・文化・観光の拠点の形成」と「交通結節機能の強化や歩行者空間の整備」が進み、商業、業務、公共・公益施設等が高度に集積するとともに、文化・観光施設との連携により交流が生まれ、「国際ビジネスを支える拠点」として示されている。



② 東京都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

【東京都／平成26年】

- 芸術・文化施設の集積、江戸下町文化を感じさせる歴史的資源や街並み、伝統的な地場産業などをいかし、芸術や伝統を育む豊かな文化、観光の拠点となる副都心を形成
- 街区単位の更新により防災性の向上が図られた、街並みや地域の雰囲気をつかした、新しいにぎわいのある下町を形成
- 駅周辺では、ユニバーサルデザインやおもてなしの視点に立った空間整備が進み、来街者に優しいにぎわいのある下町を形成

③ 台東区都市計画マスタープラン 【台東区／平成18年】

- 上野駅周辺は、「上野・御徒町広域総合拠点」及び「上野公園周辺」に位置づけられ、それぞれ「業務機能を中心とした商業との複合市街地の形成」と「芸術文化資源及びみどりの資源」である。
- 上野地域整備方針図では「文化が薫る快適な商業空間の整備と回遊性の創出」、「浅草、秋葉原との回遊性創出」、「国際的な文化交流発信拠点の創出」が掲げられている。

上野地区の位置づけ(文化)

① 都民ファーストでつくる「新しい東京」 【東京都／平成28年】

【芸術文化の振興】

- 上野や池袋、六本木などの各地域の芸術文化資源や集客資源の特性を生かした事業を推進するとともに、地域の芸術文化資源の発信を支援するとされている。

② 東京都文化ビジョン 【東京都／平成27年】

- 上野公園は「文化の杜」を中心とした文教施設の集積地、また周辺地域は、「伝統工芸品、下町文化の集積地」とされている。

③ 上野「文化の杜」新構想

【上野「文化の杜」新構想推進会議／平成27年】

- 上野駅周辺地域は、ソフト面では「文化交流の国際ハブ(拠点)形成や日本文化資源の発信の機能強化」、ハード面では「上野公園の歴史・自然環境や景観を守りつつ、年間来訪者数3,000万人を迎える体制を強化」するとされている。

上野地区まちづくりの基本的な考え方

世界に誇る豊富で魅力的な資源を有する「世界の中の上野」

地域に根付いた多様な資源を有する「地域としての上野」

視点1. 文化(上野の山)

【まちの特徴(強み)】

- ① 徒歩で回遊できる範囲内に、世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設が集積している

【まちの課題(弱み)】

- ① 文化・芸術施設は上野公園内に集積しており、地区全体としては偏りがある
- ② 上野公園内においては法令等により、これ以上の施設の大規模な増床が見込めない

■ 世界主要都市の文化・芸術施設の集積状況

特徴的な芸術文化資源を持つ世界の主要都市



東京(上野「文化の杜」) 上図に含まれる施設の合計

年間来場者数	1300万人
総延面積	18.4万㎡
公園面積	約80万㎡(各施設敷地含む)
収蔵品数	約400万点



パリ パリ中心部の国立博物館/美術館の合計

年間来場者数	1700万人
総延面積	31万㎡
公園面積	44万㎡
収蔵品数	約38万点(ボンビドーセンターを除く)



ロンドン ロンドン中心部の国立博物館/美術館の合計

年間来場者数	1500万人
総延面積	15.6万㎡
公園面積	—
収蔵品数	約700万点



ワシントンD.C. ナショナルモール内のスミソニアン博物館/ナショナルギャラリーの合計

年間来場者数	2760万人
総延面積	38万㎡
公園面積	220万㎡
収蔵品数	約395万点 (ナショナルギャラリー/国立アメリカ歴史博物館/ハーシュホーン博物館/国立アメリカ・インディアン博物館/フリーア美術館の合計)

資料:文化庁ホームページ「上野『文化の杜』新構想推進会議」より作成(備考)図・年間来場者数等比較値は2009年現在(上野地区の年間来場者数のみ2012年度現在)

出典:東京都文化ビジョン(平成27年/東京都)

■ 国立西洋美術館の世界文化遺産登録



平成28年7月に国立西洋美術館が、世界文化遺産に登録された

世界文化遺産「国立西洋美術館」

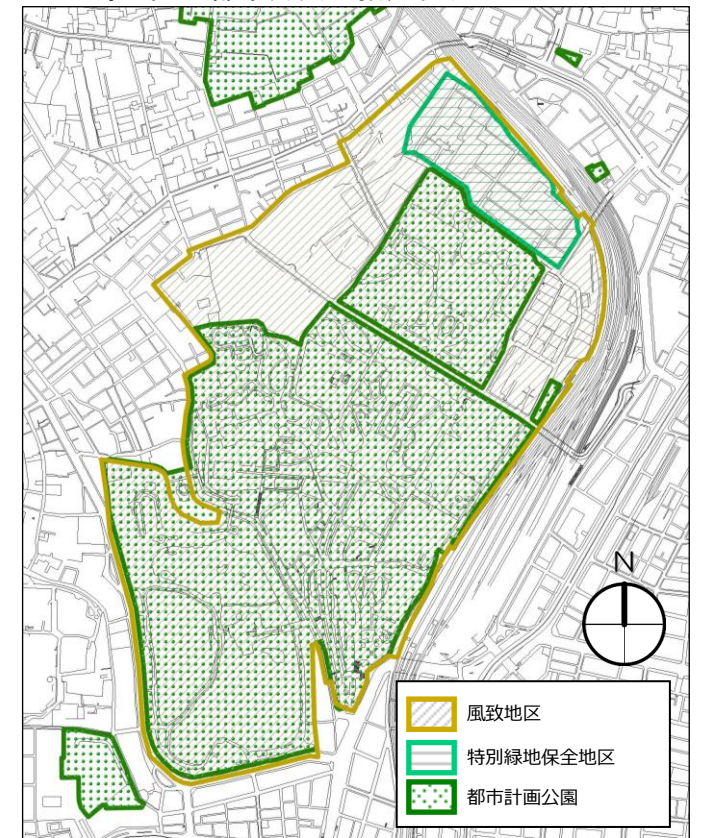
©国立西洋美術館

■ 上野地区の文化施設の配置



出典:たいとう文化発信プログラム(平成29年/台東区)より作成

■ 上野公園の都市計画の指定状況



出典:たいとうマップデータより作成

視点1. 文化(まち)

【まちの特徴(強み)】

- ① 上野地区にはアメ横を中心とする商業や賑わい、景観がある
- ② 周辺地区には多様で特色のある資源がある

【まちの課題(弱み)】

- ① まちの良さを伝える情報発信、来街者のためのまち案内などの機能が不足している
- ② 豊富な地域資源を結びつける回遊性が不足している

■ 上野地区及び周辺の主な地域資源

The map shows the Ueno area with several neighborhoods highlighted in orange circles and labeled with arrows. The central area is labeled 'アメ横等の商業ゾーン' (Commercial zone around Ameyoko). The neighborhoods shown are: 谷中地域 (Yanagichu), 根岸・入谷地域 (Nishikoi-Innagi), 湯島地域(区外) (Tsumagi, outside ward), 浅草・中部地域 (Asakusa-Chubu), 南部地域 (Minami), and 秋葉原地域(区外) (Akihabara, outside ward). Each neighborhood has a corresponding text box with photos and descriptions.

谷中地域
 ・歴史・文化資源・路地・坂が特徴的な空間を形成
 夕焼けだんだん 上野桜木あたり

湯島地域(区外)
 ・史跡や祭り等の文化資源が集積
 湯島天神 神田明神

秋葉原地域(区外)
 ・アニメなどのサブカルチャーの拠点
 ・大学サテライトなどの教育機能も集積

南部地域
 ・若手クリエイター等によるものづくりの場
 ・リノベーションによる交流空間
 デザイナーズビレッジ Nui

根岸・入谷地域
 ・閑静な住宅地を形成
 ・史跡や祭り等の文化資源が多数存在
 入谷朝顔市 入谷鬼子母神

浅草・中部地域
 ・神・仏具店街、合羽橋道具街などの個性豊かな産業が集積
 ・浅草寺を中心としたにぎわいが集積
 合羽橋道具街 ほおずき市

上野地域
 ・上野駅の南側には、都内随一の賑わいを誇る「アメヤ横丁(アメ横)」
 ・多様で特色ある商業・にぎわいが集積
 アメ横 ジュエリータウン

視点2. 観光

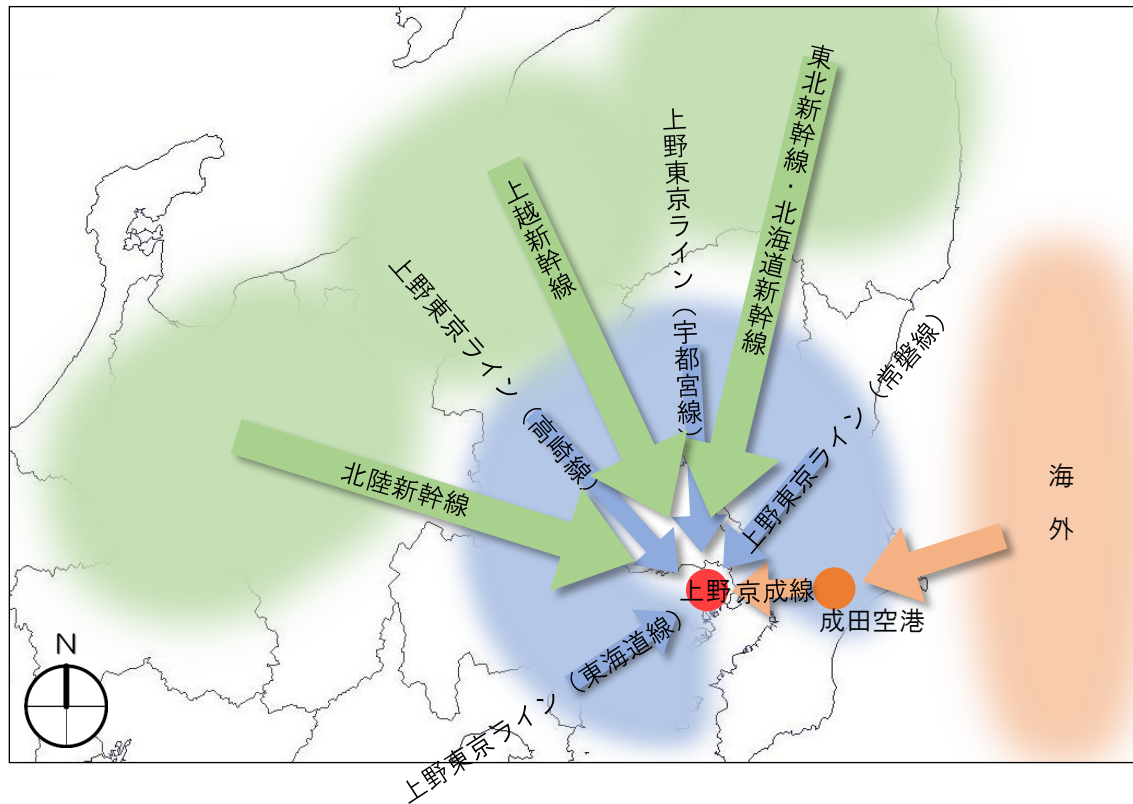
【まちの特徴（強み）】

- ① 成田空港からの直通列車、新幹線・特急列車の乗り入れにより、国内外からのアクセス性が高い
- ② 年間約2,700万人の観光客が国内外から訪れ、人気・知名度の高い観光地としての側面もある

【まちの課題（弱み）】

- ① まちの物理的な構造（道路、線路、高低差等）により、来街者の視認性・回遊性の向上に改善の余地がある
- ② 東京都の客室稼働率は高い水準（8割前後）で推移しており、多くの観光客が訪れる上野地区でも、宿泊機能の強化が求められる

■ 上野への広域交通アクセス



■ 上野地区の視認性・回遊性等の状況



【上野公園の崖線】
・観光客の多い上野公園との間には、約20mほどの段差が生じている



【上野駅不忍口】
・駅出口付近に鉄道の高架があり、視認性が悪い

■ 上野地区の観光入込客数の推計

	平成28年	平成26年
観光客数	2,726万人	2,592万人
宿泊観光客	268万人	166万人

出典：平成28年度台東区観光・マーケティング調査(平成29年／台東区)より作成

■ 東京都の客室稼働率の推移

H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
76.4%	81.1%	78.8%	82.6%	78.8%

出典：宿泊旅行統計調査(平成29年8月分／観光庁)より作成

視点3. みどり・環境

【まちの特徴（強み）】

- ① 上野公園は都内でも貴重な緑の環境が形成されており、有数の緑の拠点である（総面積約54万㎡）
- ② ビジネス・生活の場として、立地条件をいかした国際的なニーズが期待できる

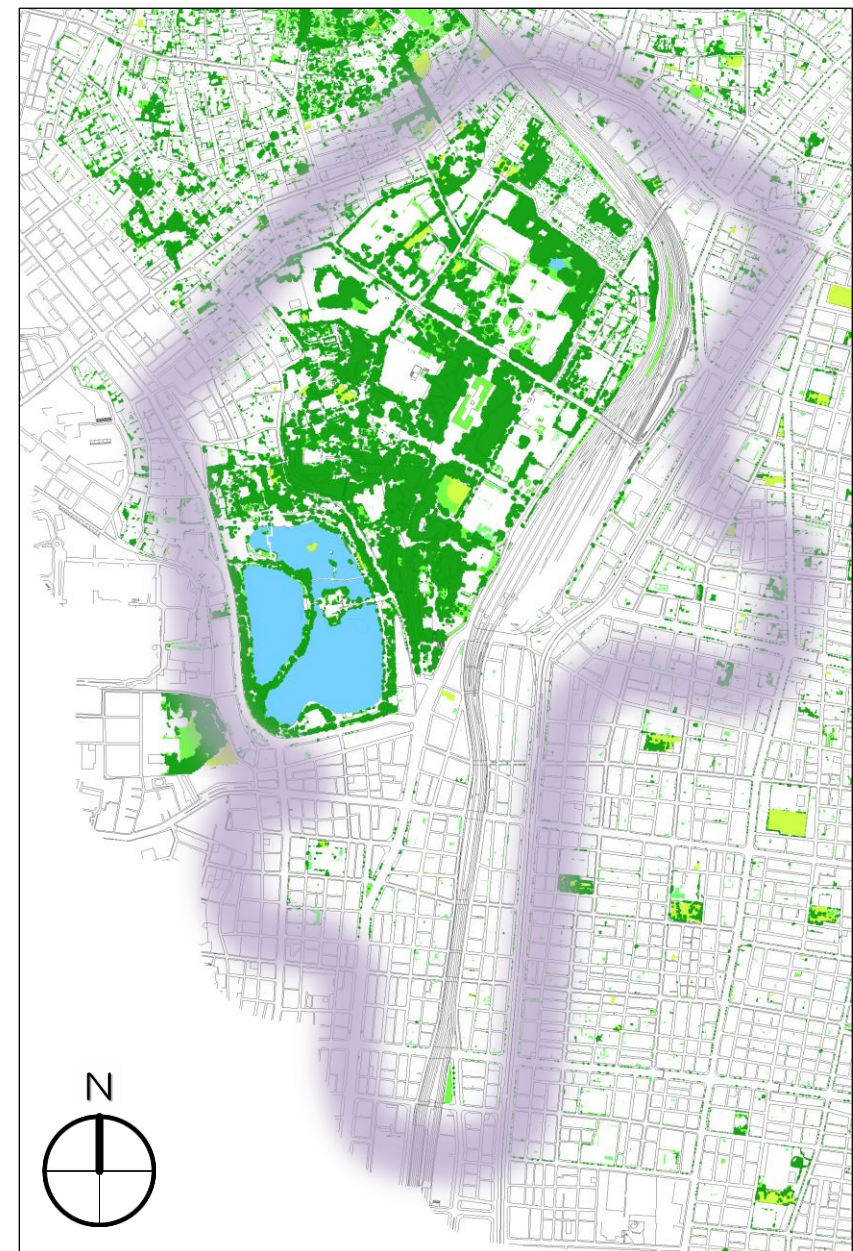
【まちの課題（弱み）】

- ① 上野公園以外では寺社・公園内や街路樹等にみどりが点在しているが、面的な広がりはない

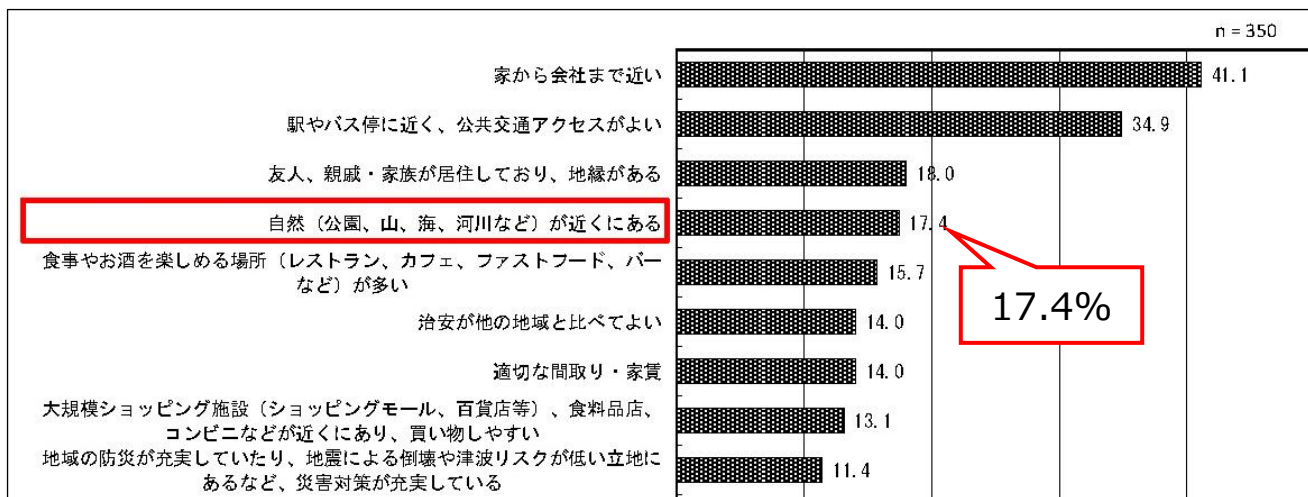
■ 東京都区部の主な緑の拠点



■ 上野地区の緑被地分布図



■ 外国人の生活環境に係る需要



出典: 大都市における国際競争力強化に向けた外国企業誘致のための外国人生活環境に係る検討調査報告書(平成29年/国土交通省)

出典: 台東区花とみどりの基本計画(平成29年/台東区)

視点4. 拠点(機能集積)

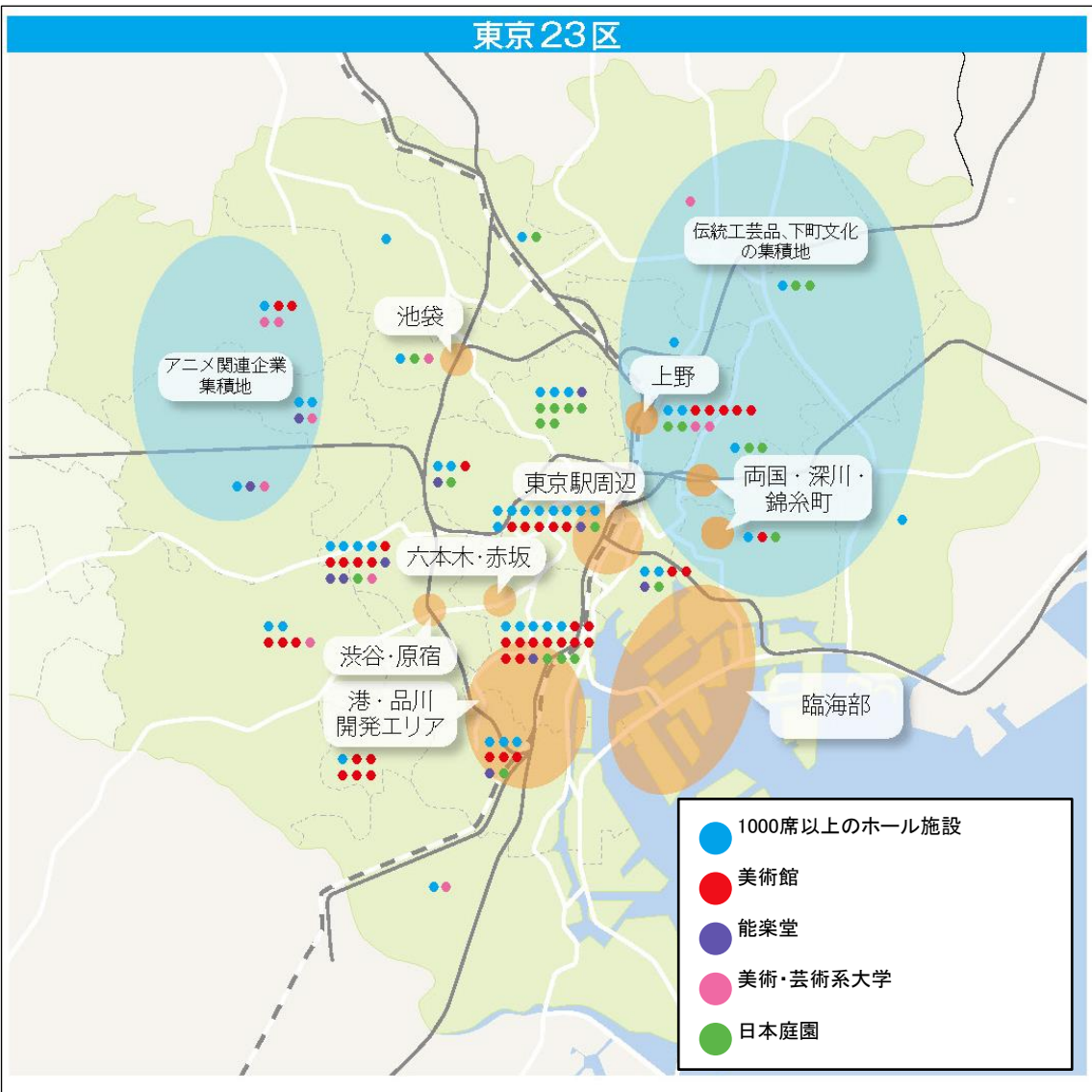
【まちの特徴(強み)】

- ① 都内主要拠点の中でも文化施設の集積度が高く、「文化の拠点」として東京の魅力を支え高めている
- ② 上野駅東側(東上野四・五丁目地区)には行政施設が集中している

【まちの課題(弱み)】

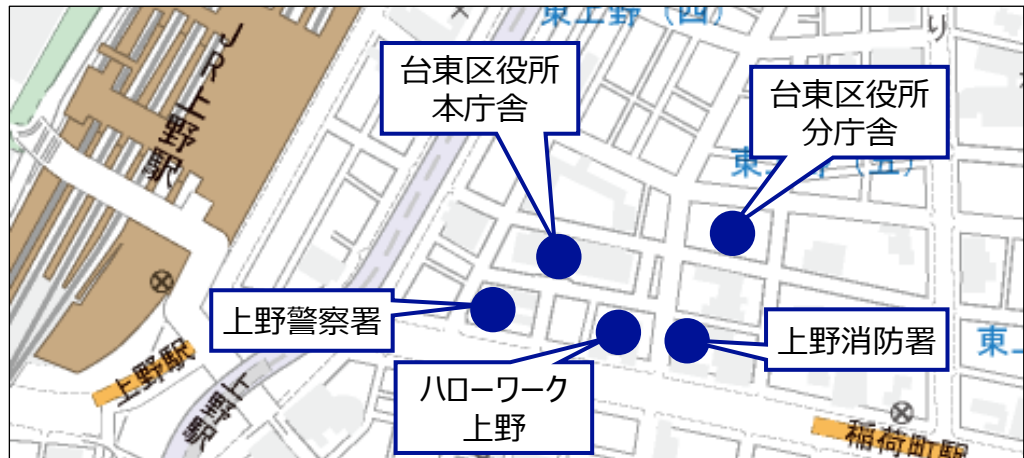
- ① まち全体に文化・観光をいかした機能の広がりが見られない
- ② 建物の高度利用が十分進んでおらず、商業・業務床面積の増加率が低く、都内他拠点と比べ集積度が低い

■ 都内主要拠点における文化施設の集積状況

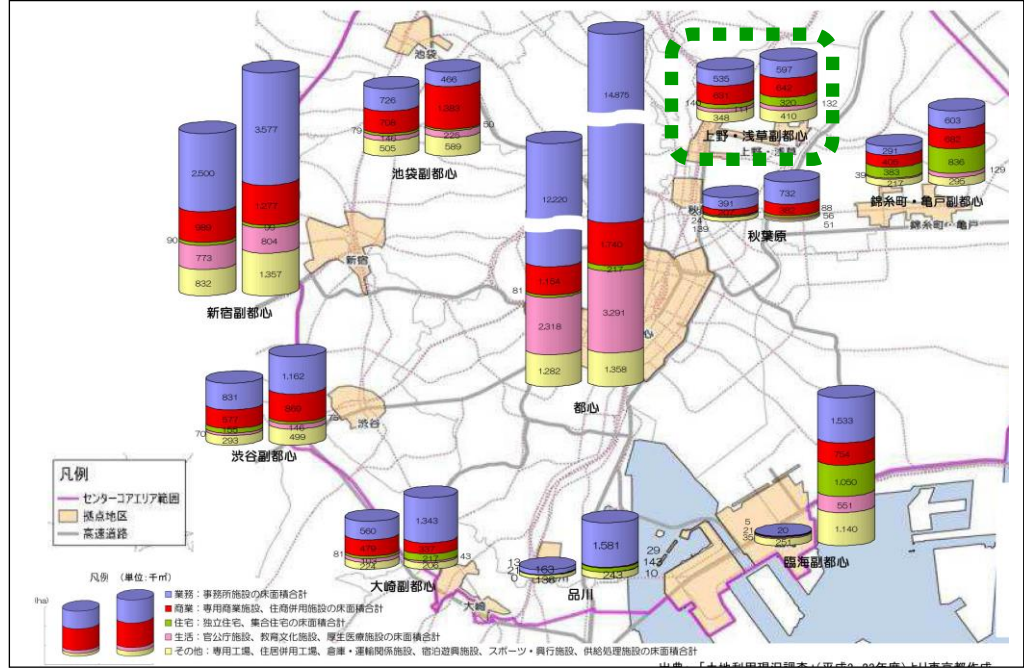


東京都/東京都文化ビジョン(平成27年/東京都)より

■ 東上野四・五丁目地区における公共施設の配置



■ 都内主要拠点における機能の集積状況



出典: 東京の都市づくりランドデザイン(平成29年)より

視点5. 交通・基盤(駅)

【まちの特徴(強み)】

- ① 上野駅は、東京の鉄道の中でも歴史ある拠点駅である
- ② 新幹線の停車駅であり、一日約62万人の乗降客数のある交通結節拠点である

【まちの課題(弱み)】

- ① 駅正面は荷捌きスペースやバスの乗降スペース等として利用されており、構造物が多く、拠点駅に相応しい顔と広場空間が不足している
- ② 駅構成や乗換動線が複雑で見通しがきかない

■ 歴史のある上野駅



竣工当時の二代目JR上野駅舎



銀座線上野駅の鉄鋼框(かまち)構造
日本土木学会の認定する土木遺産に選定されている(東京メトロHPより)

■ 上野駅前の状況



JR上野駅正面口
駅業務施設・商業施設の荷捌き等が行われている



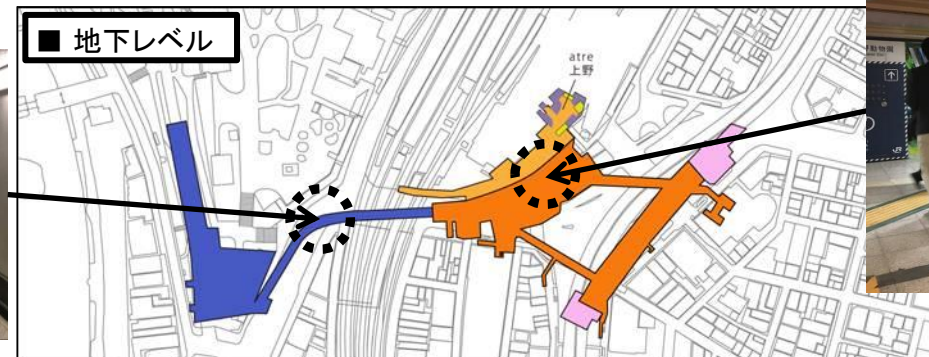
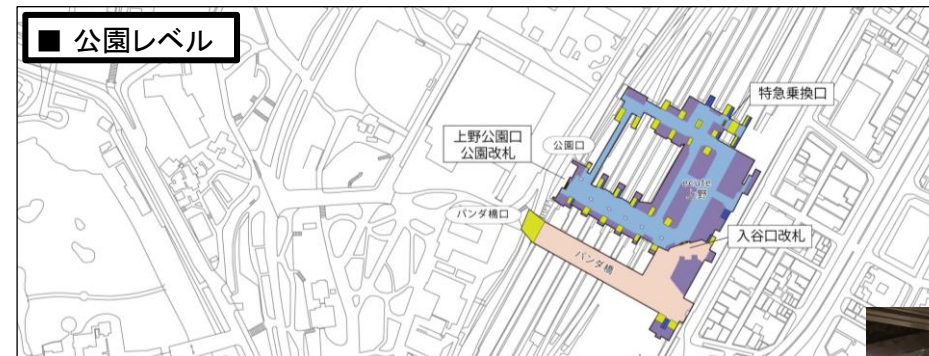
京成上野駅出口
歩道が近接しており、バスの乗降が行われるなど、滞留スペースも十分ではない

■ 上野駅の乗降客数

路線名	乗降客数(人/日) 【2015年度】
JR東日本	363,176
東京メトロ	207,240
京成電鉄	44,814
合計	615,230

(各社HPより)

■ 乗り換え動線の状況



京成上野駅との接続通路



JR-地下鉄間の乗り換えの動線

視点5. 交通・基盤(街路)

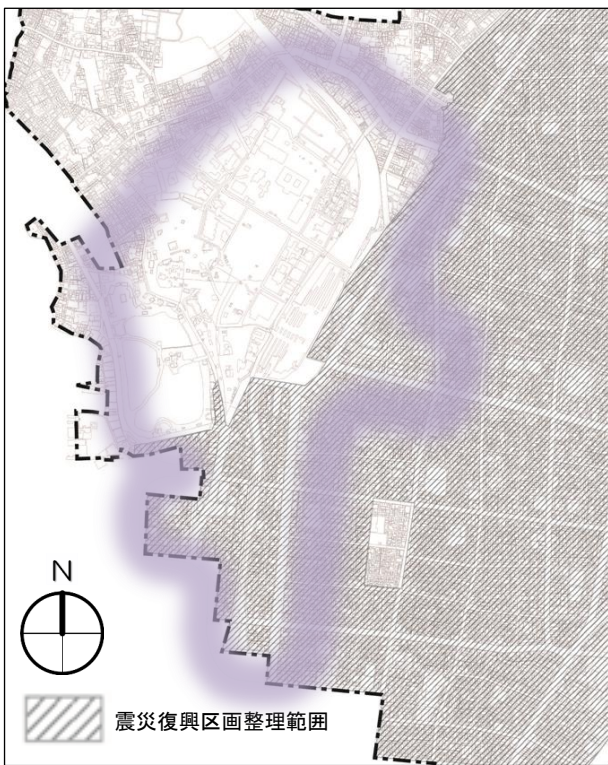
【まちの特徴(強み)】

- ① 関東大震災後の震災復興区画整理により、主要な幹線道路・区画が概ね整備されている

【まちの課題(弱み)】

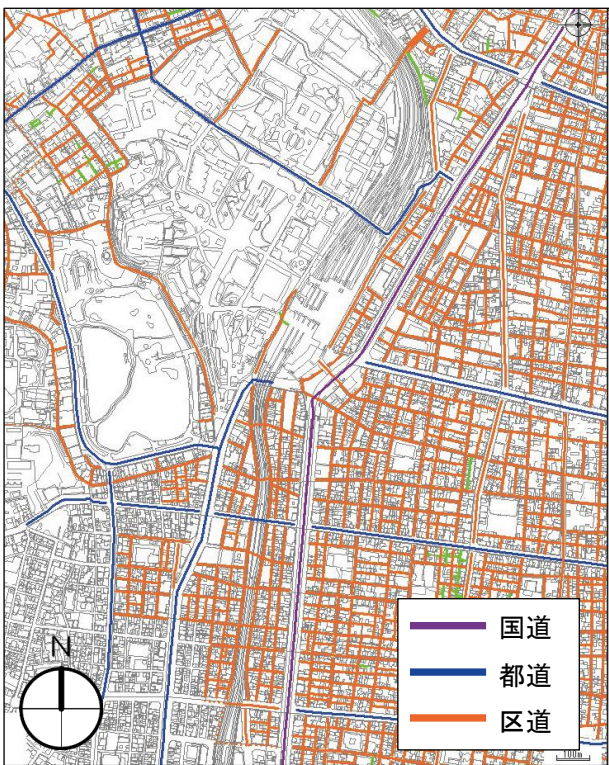
- ① 一部の歩道が混雑している一方、東西連絡通路はあまり利用されておらず、適正な歩行者空間の利用がなされていない
- ② 駐車場やバス・タクシーの乗降スペース、荷捌きスペースなどの適正な配置がなされていない

■ 震災復興区画整理範囲図



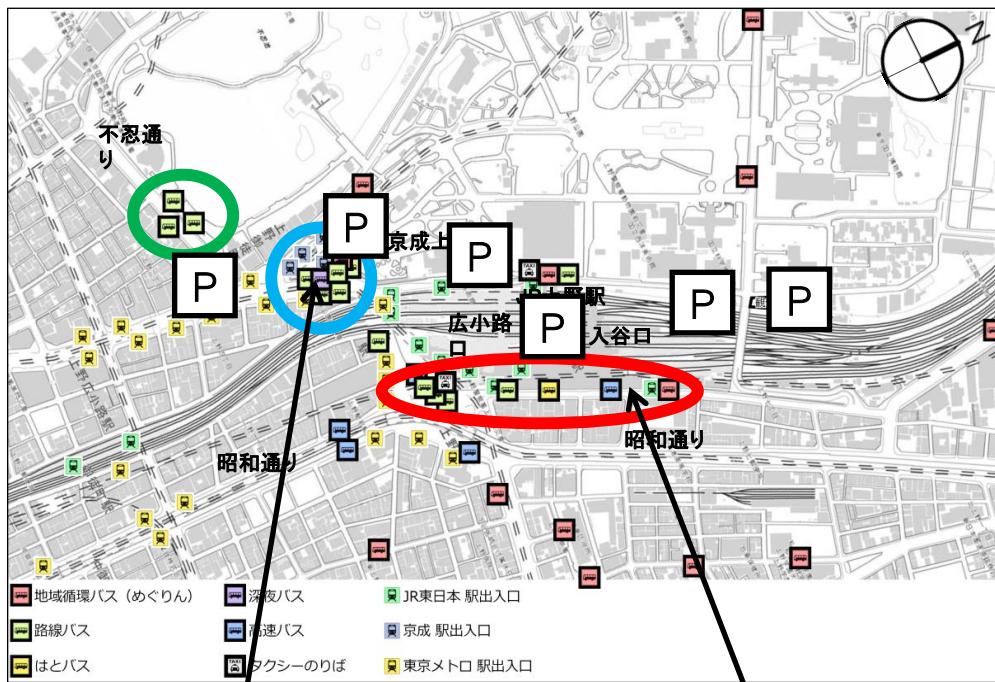
出典:台東区景観計画

■ 周辺の街路環境



出典:たいとうマップ

■ 上野駅周辺の交通の状況と駐車場の配置



■ 歩行者空間の状況



パンダ橋



上野駅付近の歩道

■ JR上野駅正面口の状況



中央通りでは、乗降客の滞留が生じやすい長距離バスなどの停留所が点在している (京成上野駅前)



上野駅周辺では、広範囲に路線バスの乗降場が点在している (JR上野駅入谷口付近)

視点6. 生活・暮らし

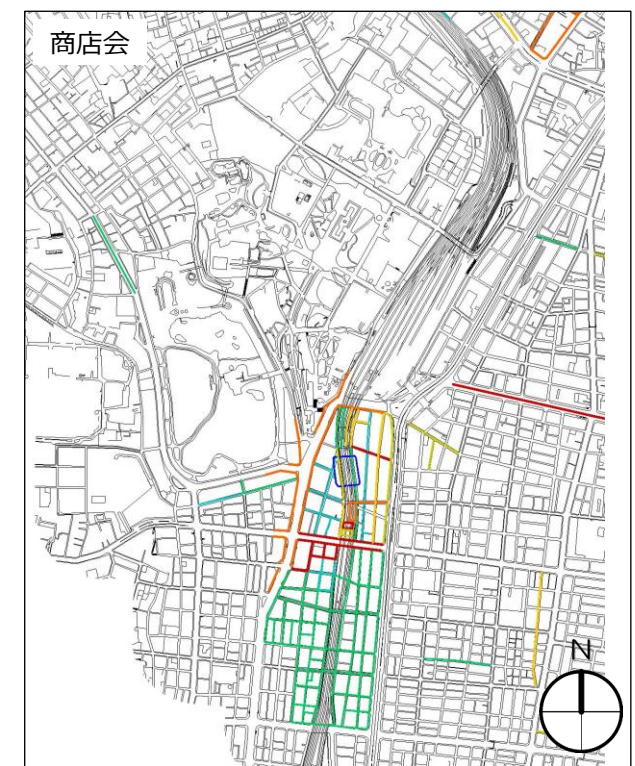
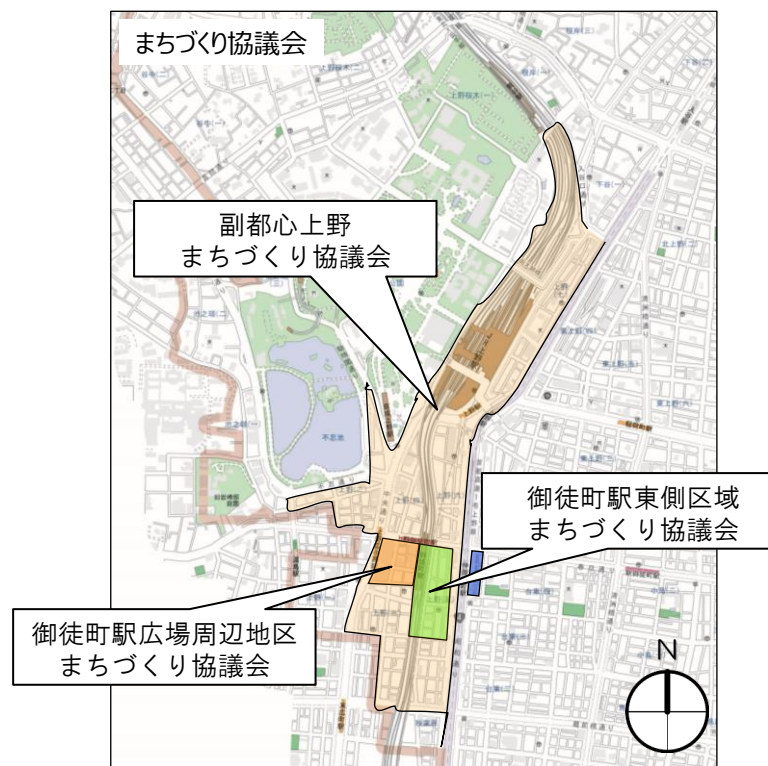
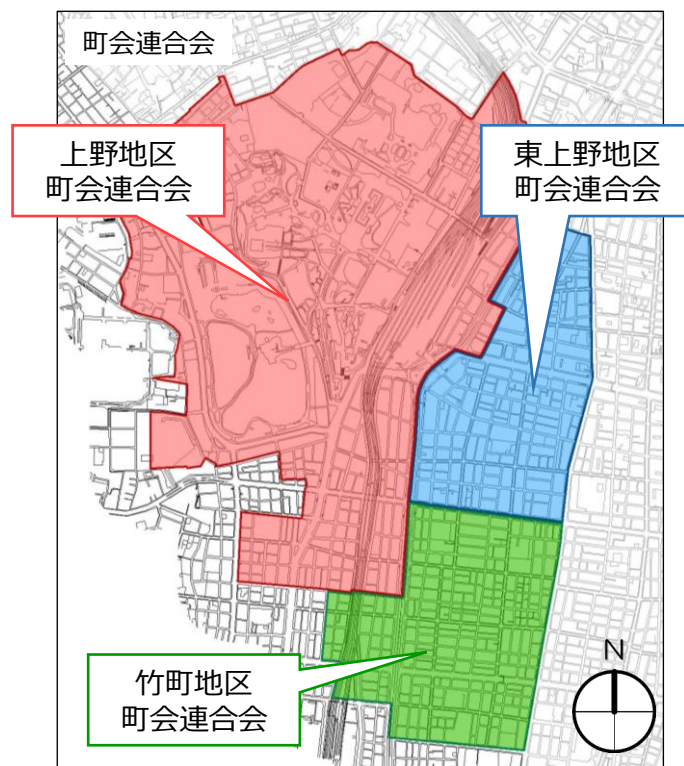
【まちの特徴（強み）】

- ① 地域で生活する人々による、歴史ある多様なコミュニティが存在する
- ② 地域の祭りや運動会等の主体的な活動が行われ、現在も強固なつながりがある

【まちの課題（弱み）】

- ① コミュニティの維持のため、まちの安全性の充実が求められる。

■ 地域コミュニティの状況



■ 多様なコミュニティの活動状況



町会連合会運動会



地域のお祭り



地域のイベント

視点7. 防災

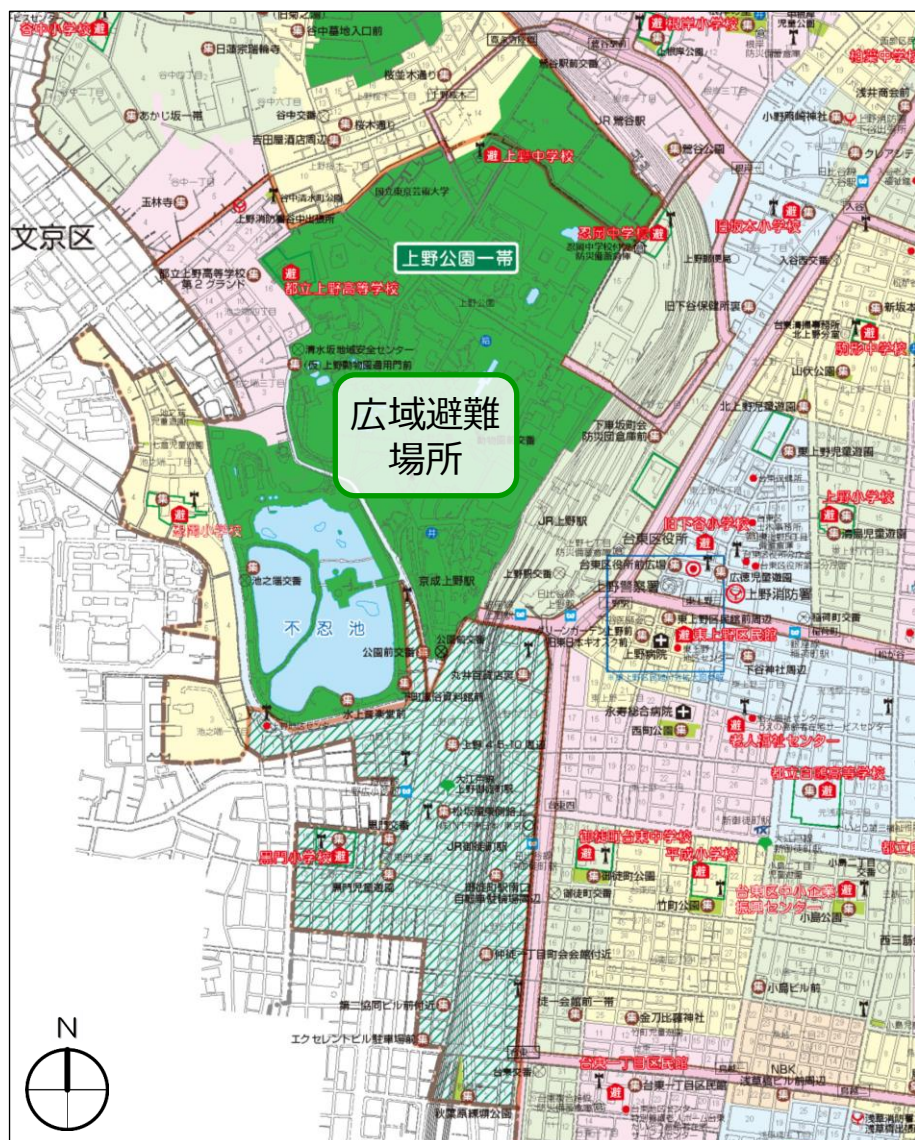
【まちの特徴（強み）】

- ① 広域避難場所に指定されている上野公園がある
- ② 多くの建物が耐火構造（約62%）であり、市街地の不燃性が高い（建物棟数：約2,900棟 耐火構造：約1,800棟）

【まちの課題（弱み）】

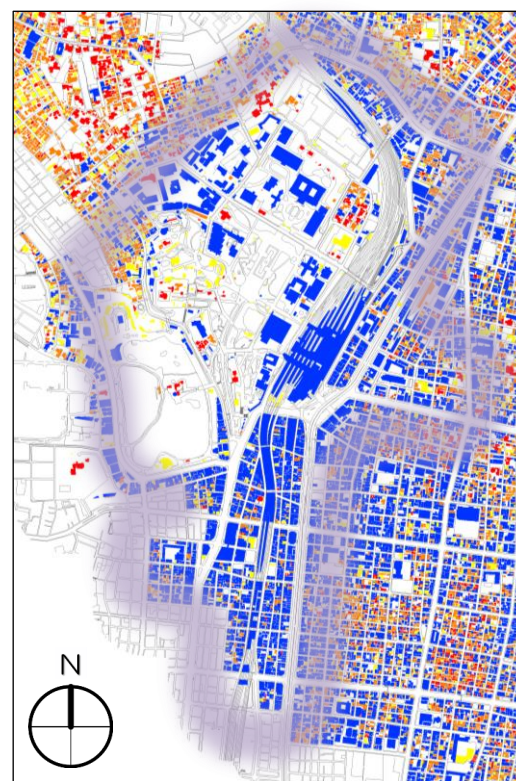
- ① 旧耐震基準（昭和56年以前）の建物が多く残っている（約62%）（建物棟数：約2,900棟 旧耐震建物棟数：約1,800棟）
- ② 首都直下型地震では上野駅周辺で2万2千人の屋外滞留者が発生すると推計されており、対策が求められる

■ 上野地区の防災に係る位置付け



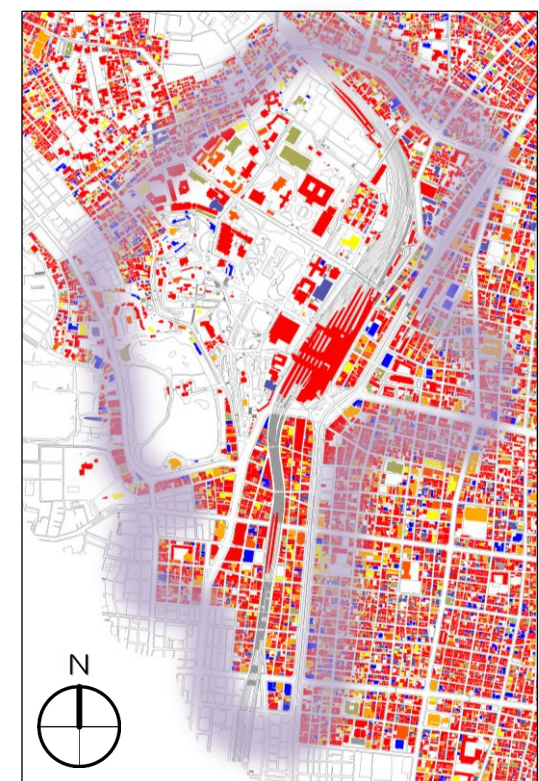
出典：台東区防災地図

■ 建物構造



出典：上野地区まちづくり基礎調査報告書（平成29年／台東区）

■ 建物経年数



出典：上野地区まちづくり基礎調査報告書（平成29年／台東区）

■ 上野駅周辺の滞留予想

区市町村名	駅前滞留者数		待機人口	滞留場所不明人口	計
	屋内滞留者	屋外滞留者			
上野駅	84,910	22,217	107,127	17,647	135,303

- ※ 屋内滞留者＝駅周辺で学校、職場等に滞留している人の総数
- ※ 屋外滞留者＝駅周辺で私用、目的不明で滞留している人の総数
- ※ 待機人口＝滞留目的が自宅及びその周辺の人の総数
- ※ 上野駅を起点に4km圏内に存在する人数をカウントしている。上記のうち、「屋外滞留者」が駅周辺に集積すると予想される。

出典：上野駅周辺エリア防災計画

◆上野地区まちづくりの基本的な考え方◆

世界に誇る豊富で魅力的な資源を有する「世界の中の上野」

地域に根付いた多様な資源を有する「地域としての上野」

◆上野地区の特徴◆

①文化
(上野の山、まち)

②観光

③環境

④拠点
(機能集積)

⑤交通・基盤

⑥生活・暮らし

⑦防災

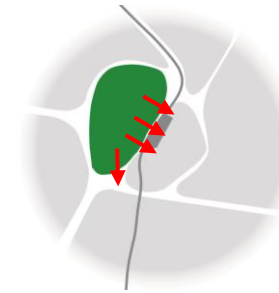
◆上野地区の将来像（目指す姿）◆

検討中

※「山の文化・芸術機能」と「まちの産業・生活・文化機能」の融合/
多様性／観光への対応 等

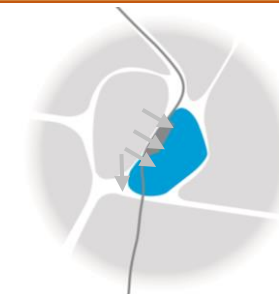
◆イメージ①◆

世界に誇る“文化・芸術・賑わい・みどり”を
広げるまちづくり



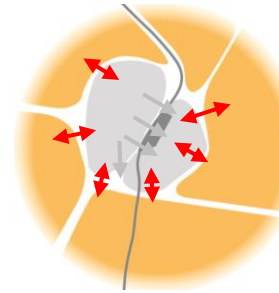
◆イメージ②◆

世界・日本各地とつながる“日本の玄関口”である
上野駅周辺を拠点とするまちづくり



◆イメージ③◆

多様な歴史・文化が残る“上野らしい”賑わいと
コミュニティを育むまちづくり



◆イメージ④◆

だれもが安心して
安全に過ごせるまちづくり

